

私は網走市で生まれ、現在も実家があります。実家のすぐ横には沈下量を計測している観測孔があり、家屋が傾いている原因は埋もれ谷の不等沈下だとこの職業に就いてはじめて理解することができました。さらに、子供のころはほぼ毎日、崖から貝化石をとって遊んでいましたので、地質に関する職業に就く環境で育ったのかなと感じています。

こんな私は高校まで網走ですごし、山形県の大学を卒業後、平成元年から現在の会社に就職し、地質技術者として23年目に突入しました。その間、ダムやトンネル・道路に関する地質調査・解析業務を担当し、東北地方約10年間、次の約10年間を四国地方で勤務しました。ほぼ20年ぶりに帰ってきたところですが、喫緊の課題は北海道の地質の特徴をつかむことと実家の沈下です。

北海道の地形地質は一言で言うとダイナミックです。小さな河川の脇にも段丘が広がり、低地帯・丘陵・山地がそれぞれはっきりとしており、地すべりやテフラの保存状態も良好だと感じています。このため、地質技術者として、最良の職場だと思いますが、いまだ満足いく結果を出せていないので、もっとべったりとニワトリの様に歩くように心がけています。

これからも、諸先輩にいろいろご迷惑をおかけすると思いますが、北海道で育った私にこの職業に就ききっかけを与え、指導を受ける直前で他界された恩師に少しでも近づけるよう、精進していく所存です。

新田 雅樹 (にった まさき)

● 応用理学部門(土质地質)

勤務先

応用地質 株式会社
技術部



→ 次号は、鈴木俊司さん(応用理学)

私は室蘭市に生まれ育ち、大学を卒業するまで自宅から通学していました。その反動ではないのですが、会社に入ってから現場を転々とし、北海道各地だけではなく東京やシンガポール、サハリンで勤務してきました。そして札幌に居を構えた現在は、室蘭の同窓技術士の集まり(高校：技術士スワン、大学：水元技術士会)に参加して室蘭の今と昔を語っています。

3年ほど前から土木学会北海道支部の幹事として広報の仕事をしています。ホームページを利用した広報活動などのほかに、学生が現場や企業を訪問することにより就職活動や将来の進路決めに役立ててもらおうという事業(通称 VISIT 事業)をメイン活動として実施しています。当初は札幌に学生を集めて市内の現場や企業を訪問していたのですが、学生の移動による経済負担を考慮して、昨年度からは各地域に分けて少人数で訪問しホームページ上で発表する形式に変更しました。今年度の VISIT 事業は、土木系学科のある5大学と2高専から選出いただいた学生幹事が、自分達で訪問先を決めて現場を訪問し、内容をホームページ上で報告するという形で実施しています。大学・高専の場所から4地域(札幌、室蘭・苫小牧、函館、北見)に分けてそれぞれ3~10名で各地域の現場を訪問し見学することになっています。訪問先の発注者やゼネコンの方に、この場を借りて感謝申し上げます。報告内容はホームページに順次掲載していきます。

先の見えない時代ですが、会社の業務を通じて技術を役立てていくことはもちろん、業務以外のところでも社会貢献できるようにがんばっていきたくと思っています。

金子 潤一 (かねこ じゅんいち)

● 建設部門(施工計画) /
総合技術監理部門

勤務先

五洋建設 株式会社
札幌支店 営業部



→ 次号は、岩田徳夫さん(建設部門)